

PROLOGUE

木二中 学校だより No.05 令和6年5月8日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



『陰徳(いんとく)を積(つ)む』とは

さすがに中学生の皆さんは、「陰徳あれば陽報あり(いんとくあればようほうあり)」という言葉聞いたことはないと思います。この言葉は、現在の中国、前漢の武帝の頃、時の王、淮南王劉安(りゅうあん)が学者を集めて編纂(へんさん)させた哲学書(思想書)、淮南子(えなんじ)に記されている一節です。

難しい説明はここまでにしましょう。もっとわかりやすく。

「陰徳あれば陽報あり」には、「人に知られずひそかに良いことを行っていると、いずれよくわかる形で良い報いを得られる」という意味が込められています。

「徳を積む」という言葉は中学生でも何となく聞いたことがある人はいるのではないのでしょうか。言うまでもなく「徳」とは良い行いのこと。皆さんが今学校で学んでいる特別の教科「道德」の「徳」になりますね。「人のために何か良いことをする」ことで他者からの「信頼」だったり「感謝」だったり自身が積みまれていく。それが「徳を積む」ということになります。

「陰徳」とは、文字通り「陰ながらの徳」ですから、「人には知られることのない良い行い」ということになりますね。良い行いであっても人が見ていたり、人に知られたりしては同じ徳は徳でも「陰徳」にはなりません。

「陰徳あれば陽報あり」、人が見ていないところで徳を積む…、とは言うものの、これがなかなかどうして、私も含めて誰もが安きに流れてしまうのが世の情け、何事でも人が見ていなければ「手を抜こう」と考えてしまいがちになりませんか？そういう人(私みたいな)が多いからこそ、戒め(いましめ)としてその言葉が太古の昔から伝えられているのかもしれない。

「陽報があるかもしれない」と思って陰徳を積もうとする考え方や行動もきっとダメなんだと思います。裏がありすぎ。本当の意味で陰徳を積む人は、当然のように見返りなんか求めているわけがありません。人知れず良い行いを見返りを求めず自然に実践する。それが大事なんだと思います。私はあと3年で60歳になりますが、修行の道はまだまだ続くなあ…とつくづく思う今日この頃です。

2024年、ドジャースに移籍した大谷翔平選手がエンゼルス時代に試合中だけでなく練習中にグラウンドに落ちているゴミを拾ったり、相手選手や審判団に気を配ったりする行動が度々報道されていました。二刀流という彼の豪快なプレイではなく大谷選手の「人間性」にフォーカスが当てられる。

当時(大谷のエンゼルス時代2023年)のエンゼルス1番バッター、ノーラン・シャヌエルは、大谷選手の試合前の準備から活躍した試合後の言動に至るまで「彼はお手本だ」と公言しているほど、アメリカの若者たちに大きな影響を与えているそう。大谷選手の善行は報道されるくらいなので、決して「陰徳」とは言えないのかもしれないけれど、シーズンを通して大谷選手の善行が次から次へとチーム関係者から伝えられるとのこと。

大谷選手のことが記されているわけではありませんが、三枝理枝子著『人間力のある人はなぜ陰徳を積むのか』という書籍の中に、日本人の、日本人としての「強み」、「徳を積む文化の美しさ」が記述されています。

興味がある人は読んでみてはどうだろうか。中学生として皆さんはどんな陰徳を積むことができるのだろうか？陰徳を積むという文化が育まれたら、木二中はどんな中学校になるのだろうか…。